

平塚協会報

発行所 公益社団法人 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部 発行責任者 小笠原 仁志

全国安全週間を迎えて

平塚労働基準監督署長 黒沢 武



本年も7月1日から7日まで全国安全週間が実施されます。本週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念のもと、一度も中断することなく続けられており、本年度で86回目を迎えます。

今年度のスローガンは、

「高めよう 一人ひとりの安全意識 みんなの力でゼロ災害」

です。

このスローガンは、労働災害防止のためには、トップから安全衛生の担当者、労働者までの事業場の全員が現場を確認し、機械設備の安全基準や作業手順などの基本的なルールを守ることに加え、事業者から労働者一人ひとりまでの安全に対する意識や危険感受性を高めることにより、労働者の安全を確保し、労働災害ゼロを目指していく必要があるといった観点から決められました。

生産技術が進み、産業構造が大きく変化している中では、指示やルールに従うだけでは現場の変化に伴って発生する災害発生要因に十分に対応できません。会社が労働者の安全を確保するために様々な対策を行うべきことは当然ですが、実際の作業を行う労働者の安全に対する意識が低ければ、十分な効果を上げることができないからです。「自分には関係ない」とか「安全対策は会社がやってくれる」という意識では、潜んでいる危険の芽をつみとめることはできません。まさにこのことが、リスクアセスメントにもつながることだと思います。

安全に「働ける」「働く」ことが企業の力の源泉であるとともに、家族が安心して暮らせる大前提です。当たり前のことかもしれませんが、これ以上のことはないと思います。

各事業場におかれましては、本週間を契機として、労働災害防止の重要性について認識をさらに深め、安全管理活動の着実な実施をお願いいたします。

さて、平成24年の神奈川県内における労働災害の発生状況につきましては、全産業における死亡者が46人、休業4日以上災害による死傷者数が6,689人となっており、前年比では死亡者数が8人の減少、死傷者数が96人(1.5%)増となりました。

業種別の死傷者数を見ますと製造業や建設業において多発していることは変わりませんが、産業構造の変化により、交通運輸業、小売業、社会福祉施設、飲食店等の業種において増加又は横ばいといった傾向にあります。また、平成24年の死亡災害のうち約半数は製造業と建設業で発生いたしました。

事故の型別で見ると、死亡災害では「墜落・転落」「はさまれ・巻き込まれ」「交通事故」で約6割を占め、死傷災害では「墜落・転落」「転倒」「動作の反動・無理な動作」で約5割を占める状況となっています。

昨年で終了した第11次労働災害防止推進計画(平成20年～24年)では、平成24年の死亡者数を45人以下、死傷者数を6,000人以下にすることを目標に取り組んでまいりましたが、残念ながら上述のとおり目標を達成することができませんでした。

一方、平塚労働基準監督署管内では、平成24年の休業4日以上災害による死傷者数は455人であり、前年比30人の増加となりました。ここ数年は400から500人の間で推移している状況です。死亡災害は平成23年に引き続きゼロでした。

今年は第12次労働災害防止推進計画(平成25年度～29年度)のスタートの年です。各事業場におかれましては、本安全週間をステップとして、12次の計画目標—平成29年までに県内の死亡者数及び死傷者数を平成24年比で15%以上減少させること—の達成に向けて、引き続き計画的・継続的な安全管理活動を実施されることを期待しています。

最後になりましたが、各事業場の皆様の益々のご発展とゼロ災害を祈念申し上げます。

平成25年 安全週間スローガン

高めよう 一人ひとりの安全意識 みんなの力でゼロ災害

全国安全週間平塚地区促進大会

「高めよう一人ひとりの安全意識 みんなの力でゼロ災害」のスローガンのもとに、去る6月4日(火)平塚市中央公民館大ホールにおいて、「平成25年度第86回全国安全週間平塚地区促進大会」が開催されました。

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、今年で第86回を迎えます。この間、全国安全週間は、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的として開催されております。

大会は、神奈川労務安全衛生協会平塚支部 菅原支部長による開会のご挨拶から始まり、次に、平塚労働基準監督署黒沢署長よりご挨拶と平塚市落合市長による来賓挨拶へと続き、引き続き、平塚労働基準監督署山崎安全衛生課長により、全国安全週間実施要綱の説明をいただきました。

休憩をはさみ、特別講演として、「転倒、滑りによる災害を予防するために」を題として、ミドリ安全(株)安全衛生相談室 田中通洋室長より講演をいただきました。最近の労働災害の発生件数の多い災害の一つで、休業4日以上「転倒災害」は例年、全労働災害の約20%前後を占めており、



原因である滑り・つまずき等に対する基本的な対策方法を学ぶことが出来ました。

最後に、神奈川労務安全衛生協会平塚支部 菅原支部長より閉会のご挨拶があり、本大会を終了いたしました。

スタンレー電気(株)秦野製作所 業務部 業務課 石塚 記

「熱中症予防対策基礎講座」開催される。

6月6日(木)当協会支部で「熱中症予防対策基礎講座」が開催され47名の方が熱心に受講された。

講習は1・2部で行われ、1部は(社)日本臨床栄養協会認定サプリメントアドバイザー 武田 功氏と2部は労働衛生コンサルタント 矢崎ますみ氏を講師に迎えての講義で



あった。講義はトーク形式で行われ、受講生も緊張の中で聴講した。

人間は、赤ちゃんで80%の水分を保持し、老人になると50%が体内水分量である。老人の水分が失われると体内失効水分比率が高くなり、より一層危険な状態に成るとのこと。加齢を重ねている人は特に水分補給に心掛けるようにとのことでした。水分補給も、水だけではなくミネラル分の補給も必須とのこと。

熱中症は様々な場所・状態で起こる。例えば、入浴時、丑三つ時(午前3時)は寝ているために水分補給が出来ず死に至る人が多いとのこと。兎に角、熱中症予防には正しい知識を身に付け、危険な状態を回避することに心掛ける。また、熱中症の症状に周りの人が、軽微な状態で気が付き施術をすれば、大事に至らないとのこと。熱中症で亡くなる方が毎年おられる中で正しい知識をもって対処したいものである。このような機会に出来るだけ多くの人の参加をお願いしたいものです。

共同薬品(株) 戸塚 光男 記



支部産業保健活動委員会をもっと広げたい

日産車体株式会社人事部健康管理センター 保健師 金田 勢津子



事業所に勤める看護職は一人職が多く、この活動委員会の目的は情報交換や交流をととして他社の活動を知り、自社の活動に活かすことにあります。年1回の事業所見学会と研修会が活動内容となりますが、年々参加者が少なく委員会運営もメンバーに限られ、現在大きな壁に突き当たっているところなんです。そんな中、昨年度衛生部会と安全部会合同で研修会を開催しました。活発な意見が交わされ新たな視点が発見される有意義な機会

となりました。他部門との連携の必要性を改めて認識させられました。ならば、この産業保健活動委員会も看護職に限定せず、もっとバラエティーに富んだ職種の方にも参加いただきたいと思います。衛生管理者はもちろんのこと、安全担当者、現場監督者、労務担当や人事、コンプラ担当者etc…。従業員の健康を考える時、関わってくる人たちは様々です。そしてどの部署も、従業員の健康が会社の基盤となることを知っています。

これからの支部産業保健活動は多種多様な職種の方々と一緒に手をつなぎながら、広めていきたい！そう思うこの頃です。

労働保険の年度更新をお忘れなく

平塚労働基準監督署

申告・納付は、6月3日(月)から7月10日(水)までをお願いします。
○提出は管轄の都道府県労働局・労働基準監督署・金融機関・郵便局へ
○電子申請の利用も可能です。
○労働保険料の口座振替納付が可能です。
○年度更新申請書の書き方等についてはコールセンター(0120-995-986)にお問合わせください。

熱中症を防ごう

平塚労働基準監督署

「熱中症」とは高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破たんするなどして発症する障害の総称です。

熱中症を防ぐためには、関係者が熱中症及び熱中症予防対策について十分な認識を持つことが重要です。

適切な対応をお願いします。

第12次労働災害防止推進計画(神奈川労働局、抜粋)

現状と課題

平成24年の死亡者数46人、(うち約半数は製造業、建設業で発生)、死傷者数6,689人(「墜落・転落」「転倒」「腰痛」で約5割)

増加傾向にある業種は運輸交通業、小売業、社会福祉施設、飲食店、食料品製造業。

「50歳以上」の労働者が被災する割合が高い。

業務上疾病による死亡者のうち、1/3以上が「脳・心臓疾患」です。

業務上疾病のうち「腰痛」の発生件数は「社会福祉施設」において増加傾向にあります。

計画期間

平成25年度～29年度(5か年計画)

計画の全体目標

- 平成29年までに、神奈川県内の労働災害による死亡者数を15%以上減少(平成24年比)
- 平成29年までに、神奈川県内の労働災害による死傷者数を15%以上減少(平成24年比)

重点業種対策

- (1)第三次産業対策(小売業、社会福祉施設、飲食店)
- (2)陸上貨物運送事業対策
- (3)食料品製造業対策
- (4)建設業対策
- (5)製造業対策

重点対策の目標設定

災害の減少

死亡災害

全業種、平成24年46人を平成29年に39人に
建設業、平成24年16人を平成29年に12人に
製造業、平成24年12人を平成29年に10人に

休業4日以上の災害

全業種、平成24年6689人を平成29年に5600人に
小売業、平成24年875人を平成29年に700人に
社会福祉施設、平成24年485人を平成29年に430人に
飲食店、平成24年389人を平成29年に310人に
陸上貨物運送事業、平成24年825人を平成29年に740人に
食料品製造業、平成24年332人を平成29年に280人に
建設業、平成24年907人を平成29年に760人に
製造業、平成24年1126人を平成29年に950人に

労働安全衛生規則の一部改正について

「労働安全衛生規則の一部を改正する省令」(平成25年厚生労働省令第58号)により、食品加工用機械と車両系建設機械に関する規制が追加されました。詳しくは厚生労働省又は神奈川労働局のホームページをご覧ください。

Ⅰ 食品加工用機械関係

- 食品加工用機械について次の措置が義務付けられました。
 - ・切断機・切削機による切断・切削の危険の防止
 - ・「粉碎機・混合器」、「ロール機」、「成形機」等による巻き込まれの危険の防止
- 機械の目詰まり等の調整時には原則として、機械の運転を停止する等の措置が義務付けられました。
- 施行期日 平成25年10月1日

Ⅱ 解体用機械関係

- 「鉄骨切断機」、「コンクリート圧搾機」又は「解体用つかみ機」が、車両系建設機械の「解体用機械」に追加されました。
- ①既存の解体用機械(ブレーカ)と同様の措置
 - ・規格を備えないものの譲渡・提供の禁止
 - ・技能講習又は特別教育
 - ・定期自主検査 など
- 鉄骨切断機等の用途・性質に応じた措置
- 施行期日 平成25年7月1日

労働災害発生状況(労働者死傷病報告件数)

(平成25年5月末現在)

		製造業	建設業	運輸業	陸上・港湾貨物 運送・取扱業	その他	計
平 塚 労働基準 監督署	平成25年1月～5月 うち死亡災害	32 0	16 0	4 0	19 0	67 0	138 0
	平成24年 うち死亡災害	99 0	74 0	20 0	53 0	209 0	455 0
	平成23年 うち死亡災害	104 0	54 0	21 0	42 0	204 0	425 0
神 奈 川 労働局	平成25年1月～5月 うち死亡災害	323 1	271 5	115 0	268 1	1016 7	1993 14
	平成24年 うち死亡災害	1126 12	907 16	361 0	860 4	3435 14	6689 46
	平成23年 うち死亡災害	1122 8	914 23	335 1	832 9	3390 13	6593 54



雑感 海水を飲む緑色のハト「アオバト」

日産車体マニュファクチャリング(株) 管理部 金子 典芳

日本には緑色をしたアオバトという山奥にすむ野生のハトがいます。

神経質でしかもその色などにより見つけにくい、昔から日本にいた鳥ですが、生態には謎が多く、ご存知無い方が多いと思います。バードウォッチングから野鳥の生態研究に高じて、鳥仲間と一緒に特にアオバトについて深く調べています。

今回の寄稿を使って研究成果の一部を紹介します。

〈どんな鳥?〉

体長約33cmの中型のハトで、全体が緑色の美しい羽色です。雄だけは肩の部分がアズキ色をしています。夏には九州から北海道まで広く分布し、平塚市でも西部丘陵などで見られることがあります。冬は主に西日本に移動しています。

英名は「Japanese Green Pigeon」、漢字で書けば「緑鳩」、色から付いた名前とか「アオー」と鳴くその鳴き声からという説などがあります。

〈どこで見られるの?〉

1996年に「アオバトの集団飛来地」として神奈川県天然記念物に指定された大磯町の照ヶ崎海岸が有名で、日本最大のアオバト飛来地と考えています。

〈ふしぎな生態〉

夏、すなわち繁殖期の食性は果実に特化し、生命維持に欠かせないナトリウムを求めて海岸に飛来します。加えて、両親鳥は体内で生成したビジョンミルクを雛に与える子育て方法から、積極的に海水を飲むのではないかと考えています。



神奈川県では丹沢山地の標高900m以上が繁殖地です。

一方冬は森でひっそりと暮らしながら地上に落ちたドングリを食べ、海水を飲むことは無く真水を飲んでいきます。日本の自然環境を広く利用していることから、この鳥の保護には、多くの土地にまたがる環境保護を考える必要があります。

これからもその生態解明に挑戦していきたいと考えています。

リフレッシュを兼ねて、アオバトを見に夏の照ヶ崎へ来ませんか?

支部の看板講師

三瓶 裕二 氏



講師歴30年以上の大ベテラン。受講生の述べ人数は1万人を超え、毎回熱い授業が展開されている。

1. 家族構成

本人、妻の二人暮らし結婚して埼玉在住の息子が一人。

2. 出身地／出身企業

福島県郡山市／日産車体(株)で退職前の職場は安全環境部

3. 担当する講習会

- ・危険予知訓練入門教育及びリーダー研修
- ・安全管理者選任時研修
- ・職長安全衛生教育

- ・有機溶剤業務従事者教育、粉じん作業従事者教育、新入者安全衛生教育
- ・リスクアセスメント実務者研修及び管理者研修

4. 本人に質問：趣味はなんですか?

読書、全て時代小説です。毎日少しでも時間があれば本を広げて読んでいる状態です。

その中でも、佐伯泰英さん、上田秀人さん、門田泰明さんの時代小説は全て欠かさず読んでおり毎月10冊以上は読んでいます。

江戸時代のものがほとんどで、小説の中に地名や川(堀)、橋などが掛かっていると江戸時代の古地図を引っ張り出して、その道筋をたどりながら現在のどのへんかなどさがして楽しみながら読んでいます。

また、映画も好きで平均すると3本／月程度は鑑賞しています。

編集後記

先日、とある出張先でタクシーに乗る機会があった。乗ったのは個人タクシーで運転手は六十歳ぐらい。車はクラウンで新型ではない。「運転手さんこの車はどの位乗ってますか」と尋ねたところ、「四十万キロを越しました」と。「随分と大切に乘りますね」と言ったら、「我々の業界では三十万キロ以上が普通ですよ、五十万キロまで乗るつもりです。根気よく毎日整備していれば、ほどほど乗れるものですよ」と。

このように「飯の糧」である事に愛情を持ち、毎日毎日

手入れをしていれば随分と長持ちするものである。人間の寿命も然りではないだろうか。食べ過ぎ・のみ過ぎ・遊び過ぎ、そして睡眠不足・運動不足で長命したという人は殆ど聞かれない。健康な人とは、それなりに常識を持った人とも言えるのではないか

車も機械類も人間の寿命も「愛情ある整備点検」を継続することによって如何ようにでもなるように思う。前述したタクシーの乗車距離は恥ずかしながらワンメーター。ご家庭職場を問わず、安心な生活と日々の成果を成し遂げる為には、まず「個々に合った日常継続可能な健康管理(整備)」が大切と思われる。最近、注記されだしたメタボリックの星マークの漸増も気になりだし、心身のリフレッシュ効果もあるウォーキング等を取り入れた生活に心掛けていくこの頃であります。

富士ダイス(株) 柏野 記